

# 第5回境港市読書活動推進大会

## が開催されました！

3月14日（日）市民会館ホールで、「読書の楽しさを広げよう！読書のまち境港をめざして」をスローガンに「第5回境港市読書活動推進大会」が開催されました。生涯ととして読書活動の推進を市政の柱の一つと掲げている境港市で、さまざまな形で読書の楽しさを広めている各部門の活動発表や、ノンフィクション作家の柳田邦男さんによる「絵本、読書と心の発達」と題した講演が行われました。

### 活動報告と今後の展望

#### 司会進行

おはなしポケットの会 代表 足立茂美さん

読書活動の推進をまちづくりの柱の一つにして平成17年に境港市子ども読書推進計画を策定し、胎児期・乳幼児期・小中高生・成人期・高齢期など生涯を通じての読書推進を提唱しました。5年間の各団体の取り組みと今後の展望について報告していただき、改めて共通の理解や思いの共有ができたらいと思えます。

#### ①境港市子育て支援課 竹内真理子さん

平成14年度に6カ月健康診断で絵本を手渡すブックスタート、平成17年度に1歳6カ月健康診断で絵本を手渡すブックスタートプラス、さらに平成19年度からは母子手帳交付時にプレゼントする取り組みを始めました。今後も市民と行政が連携して、子どもの成長に合わせて、絵本に出会える機会づくりや、親子の絆を強めながら安心して子育てができる環境づくりに努めます。

#### ②私立美哉幼稚園 園長 西元和夫さん

絵本の読み聞かせに力を入れています。目と耳から入って融合する幸福な結婚が、絵本という総合芸術です。登場人物と心をつなげる共感力や想像力が養われます。園内にある絵本館を地域の方々に開放しています。

ある年の発表会で、年少組23人による群読が会場を沸かせました。ブックスタートで、その本を読んでもらっていたんですね。



すみれ組23人による群読「めの まど あける」

#### ③家庭での取り組み 渡辺博美さん

絵本の読み聞かせで、親子でとても良い時間を共有できることのすばらしさを実感しています。

子どもたちに集中力がつくこと、そして表情がとても豊かになりました。胎児もちゃんとお話を聞いていることがわかりました。今ではお兄ちゃんが妹に、妹がお腹の弟に読み聞かせをしています。

先輩のお母さんにしていただいたように、今度は自分が後輩のお母さんや子どもさんのために、読み聞かせ活動に参加して行きたいです。



#### ④境港市外江小学校 司書教諭 中井圭子さん

夏・冬休みにファミリー読書（家読）に取り組んでおり、家族での読書の時間が増えたとか、親子の会話が増えたとか大変好評です。人とかかわりを豊かにしてくれる、読書の輪を家庭、地域へ広げていくことが大切です。

ファミリー読書の目的は、家族で本に親しみ、語り、コミュニケーションを深め、子供たちの心の居場所を家庭に取り戻すことです。

#### ⑤市立第三中学校 司書教諭 上根恵理子さん

朝読の取り組みは、朝の会の後の10分間で実施しています。生徒たちはこの時間をとても楽しみにしています。学校図書館も子どもたちがとても楽しく利用する場所になりました。8千冊の蔵書に対し、月に650冊の貸出があり、一人平均月2冊程度。生徒の本との出会いを、さらに手助けできるよう努めていきたいです。

#### ⑥境港市読み聞かせ団体連絡協議会

代表 浜田照美さん

協働のまちづくりのため平成18年に設置された「境港市民活動センター」を拠点に、4つの団体が平成19年に協議会を発足し、ストーリーテリングなどの活動をしています。

境港市の未来を築く心豊かな人を育てるため、全市民を対象にした読書推進を目指し、大人にも子供にも絵本や読書の楽しさを伝えていきたい。

#### ⑦境港市民図書館 館長 池淵博さん

絵本や大活字本の購入にも力を入れています。祝日開館も実施し、近年、利用者が増えています。

平成19年度の読書大会で家読について、佐川二亮氏にご講演いただき、図書館だよりでも取り上げてきました。

学校図書館との連携もとても深まり、利用が増加しています。小中学生の要望にもこたえていきたい。

一般購入図書のリクエストにもお応えしていますので、市民の皆さん、ぜひご活用ください。

### 特別講演 「絵本、読書と心の発達」

講師 柳田邦男さん

（ノンフィクション作家）

～ 講演からの抜粋 ～

お腹の中の赤ちゃんの人格形成に、お母さんの心理状態がとても影響するんです。さらに、生まれて1～2年、両親や家庭環境は、子どもの一生を決めるほど重要であることが研究でわかってきました。

乳児期における虐待は大変な影響を与えます。世界一進んでいるオランダでの研究では、虐待のひどい母親たちを1年間追跡調査し、子どもの心の発達を調べました。

「言葉を発せず、自分を表現できない」「退行現象などにより心が育っていない。」という結果が出ました。

温かく包む愛、アタッチメント（愛着）がとても大切です。羊水の中での安心感はもちろん、生まれた後も大切であり、心のへその緒は3歳まで消えないと言われるくらいです。それほどお母さんに密着する必要があるんです。早く自立させようとするのは誤りです。



絵本とは、親子の交流関係を回復する具体的で、唯一の救世主だと思います。読んでいるお母さんも心が癒されます。豊かで穏やかな気持ちになれます。

子どもの心の発達段階に応じて、絵本が心の成長にどうかかわるか、また「気づき」の大切さを数冊の絵本を例に話します。

例1「めっきらもっきらどーんどん」・・・保育所の先生が、おねしょで悩む子や、友達をよく泣かせる子に、上手にヒントを与えながら、ビー玉をのぞかせて、自分で解決させるような気づきを与える。自分を客観的にみる経験を持たせることは、とても大切です。

例2「たいせつなきみ」・・・苦手な体育をずる休みした小学校1年生の女の子に、翌日この本を与えるすばらしいお母さん。しかっても本質は変わらない。本人の気づきが大切です。

子どもばかりでなく、大人も大切であり、「大人こそ絵本を」と考え、対象を広げてきました。大人だって終生、心は発達するもの。人生にはつらく悲しい出来事がいろいろあります。幼いころ、若いころ読んだ本が、とても役に立つこともあります。本の力、言葉の力はとても大きいと思います。

～講演を終えて～

「境港では各部門でとても頑張っておられ、感銘を受けました。私が頭に描いていることを、ほとんどされている。すばらしいですね。」

柳田邦男先生が作成された

「子どもの心の発達を考える絵本21点」

「子どもの心の成長と大人のかかわり方を考える」など推薦の絵本リストを市民図書館に掲示すると共に、全巻そろえますので、ご利用ください。